



MFC 4000
Music Production Center

Version 1.20 追補版

AKAI
professional

使用説明書

ご使用になる前に、必ずこの
使用説明書をよくお読み下さい。



MPC4000 V1.20 追補版

MAINモード

- Track Mute EventウィンドウとUse track mute eventフィールドを追加 1

PROGRAMモード

- Zone Start Modulation機能に対応 2
- Zone Switch Modulation機能を追加 3
- AUTO FIND KG機能を追加 3

SAMPLEモード

- BEAT表示機能を追加 3
- Quick-FX-ResamplingウィンドウにSendフィールドを追加 3

SEQ EDITモード

- Copy Dataウィンドウに[F4]ALL NOTEを追加 4

SONGモード

- SyncフィールドとSync In/Outウィンドウを追加 4

RECORDモード

- オーディオCDプレイヤー機能を追加 4

MISC.モード

- Step event monitorフィールドを追加 5
- NOTE REPEAT keyフィールドを追加 5
- ERASE keyフィールドを追加 5

その他の追加機能

- ドライブメディアからのOSバージョンアップに対応 6
- EIII™サウンドライブラリーに対応 6
- Disk Listウィンドウ以外でのEJECTに対応 6
- Edit Part機能を追加 6
- Destinationフィールドを追加 7
- USBホストドライバーの改善 等 8

互換性に関する重要事項

V1.20で追加された新機能によって、V1.20で作成、或いは保存されたプログラムをV1.20以前のMPC4000でロードできなくなりました。
同様に、MPC4000のV1.20で作成、或いは保存されたプログラムをZ4/Z8のV1.16、或いはそれ以前のOSでロードすることができません。
S5000/S6000ではこの追加機能による影響はありませんので、V1.20で作成、或いは保存されたプログラムをロードすることができます。

Use track mute eventsフィールドを追加

TRACK MUTEモードで記録したトラックミュートイベントを使用するかどうかを選択できるようになりました。併せて、ミュートトラックを消去するErase All Muted Tracks機能も変更になります。

MAINモードのトラックブロックのMuteフィールドで[WINDOW]キーを押すとTrack Mute Event/Erase All Muted Tracksポップアップウィンドウが表示されます。



Use track mute eventsフィールド

- ON シーケンス再生時にTRACK MUTEモードで記録したトラックミュートイベントに応じて、各トラックのミュートのオン/オフが自動的に切り替わります。
- OFF シーケンス再生時にTRACK MUTEモードで記録したトラックミュートイベントを使用しません。

Erase All Muted Track機能の変更について

Use track mute eventsフィールドの設定によって[F6]キー(DO IT)を押したときの動作が、以前とは異なります。

Use track mute eventがONの場合

トラックミュートイベントのミュート指定範囲を消去します。

Use track mute eventがOFFの場合

MAINモードでトラックブロックのMuteフィールドがONになっているトラックを消去します。

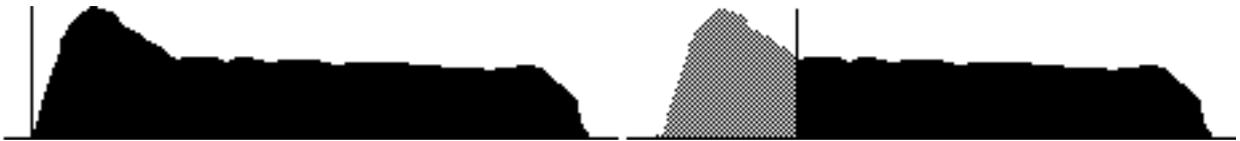
Zone Start Modulation機能に対応

Program Modulationを使ってサンプルのゾーン・スタートをコントロールできるようになりました。

PROGRAMモードの[F2]キーグループミックスページから[F6]ゾーンページを選び、ピッチブロックのStartフィールドを+/-9999の範囲で設定します。

Startフィールドで[WINDOW]キーを押すとProgram Modulationポップアップウィンドウが開くので、DestinationフィールドでZONE 1 START ~ ZONE 4 STARTを選択してSourceフィールドで任意のコントロール・ソースを設定します。

- 例 1 Startフィールドを+0000に設定し、Program ModulationポップアップウィンドウのSourceでVELOCITYを選択してDepthを+100に設定した場合、ベロシティ 0 では0サンプルから、ベロシティ127では9,999サンプルからプレイします。



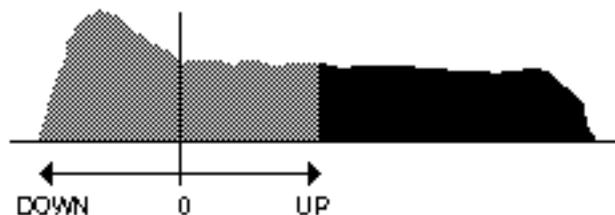
- 例 2 Startフィールドを+9,999に設定し、Program ModulationポップアップウィンドウのSourceでVELOCITYを選択してDepthを+100に設定した場合、ベロシティ 0 では9,999サンプルから、ベロシティ127では19,998サンプルからプレイします。



- 例 3 Startフィールドを+9,999に設定し、Program ModulationポップアップウィンドウのSourceでVELOCITYを選択してDepthを-100に設定した場合、ベロシティ 0 では9,999サンプルから、ベロシティ127では0サンプルからプレイします。



また、バイポーラのコントローラー（例、0で方向が反転するピッチベンドやLFO等）を使えばサンプル・スタートを両方向にコントロールできます。



Zone Switch Modulation機能を追加

Zone X-fadeフィールドの選択肢にREAL TIMEが追加され、ONがVELOCITYへ変更されました。REAL TIMEを選択するとProgram Modulationを使ったゾーンの切り替えが可能となります。

PROGRAMモードの[F2]キーグループミックスページから[F6]ゾーンページへ移動して、サンプルブロックのZone X-fadeフィールドでJOGを回すと、OFF/VELOCITY/REAL TIMEを選択できます。

OFF	ベロシティの強弱によるゾーンスイッチです。
VELOCITY	ベロシティの強弱によるゾーンスイッチですが、サンプルのRangeフィールドをクロスさせてフェードイン/アウトさせることができます。
REAL TIME	モジュレーションマトリックスのコントローラーを使ったゾーンスイッチで、サンプルのRangeフィールドをクロスさせてフェードイン/アウトさせることもできます。

例えば、Zone X-fadeフィールドでREAL TIMEを選択してProgram ModulationポップアップウィンドウのSourceでMODWHEELを選び、DestinationをZONE SELECTに設定すれば、モジュレーションホイールを使ったゾーンスイッチ（クロスフェード）が可能になります。

また、後述するQ-LinkのTRACKと併用すればQ-Linkノブ/スライダーを使ってゾーンスイッチ（クロスフェード）をコントロールすることができます。

AUTO FIND KG機能を追加

MIDIキーボード等を使ってKGを選択できるようにAUTO FIND KG機能が追加されました。

PRPGRAMモードで[SHIFT]キーと[GO TO]キーを押しながらMIDIノートを受信すると該当キーグループへカーソルが自動的に移動します。

BEAT表示機能を追加

スタートポイントからの時間を拍数で表示できるようになりました。

BEATフィールドの隣にある ↓ フィールドでは、拍数表示の元となるテンポを設定できます。

TRIM	Start:	, , 0	BEAT:	0.25	↓:120.0
------	--------	-------	-------	------	---------

SAMPLEモードの[F2]トリム/ループページでTRIM ENDフィールドにカーソルを合わせてJOGを回すと選択肢にBEATが追加されています。

Quick-FX-ResamplingウィンドウにSendフィールドを追加

Q-FXのFX Send Levelを調整できるようになりました。

SAMPLEモードの[F2]トリム/ループページで[F4]キー(Q-FXを押してQuick-FX-Resamplingポップアップウィンドウを開くとSendフィールドでエフェクトへの送信信号レベルを調整できます。

Copy Dataウィンドウに[F4]ALL NOTEを追加

全ノートイベントをコピーしたい時に[F4]キー(ALL NOTE)を押すことで、PadフィールドをALLに、Notesフィールドを0(C-2)-127(G8)に設定できるようになりました。

SEQ EDITモードで[F3]キー(COPY)を押してCopy Dataポップアップウィンドウを開くと、[F4]キー(ALL NOTE)が追加されています。

SyncフィールドとSync In/Outポップアップウィンドウを追加

SONGモードのソングブロックにSyncフィールドが追加され、Syncフィールドで[WINDOW]キーを押すとSync In/Sync Outポップアップウィンドウが表示されるようになりました。

各パラメータの設定はMAINモードのSync In/Sync Outポップアップウィンドウと共通ですが、Sequence start timeフィールドは各ソング/シーケンス毎に設定できます。

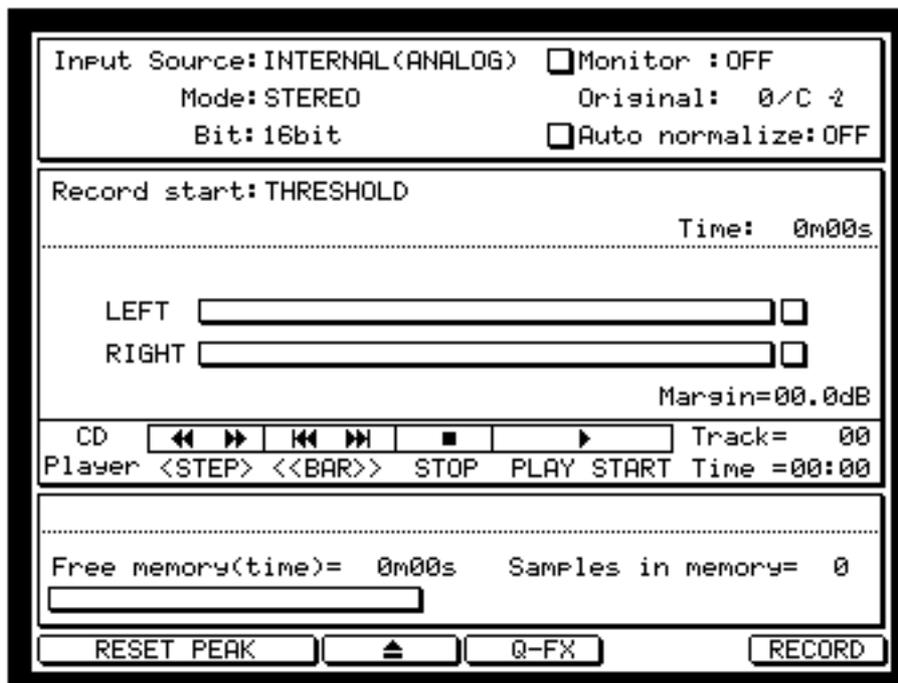
注：MISC.モードの[F2]シンクページは移動しました。MAINモードでは[F1]メインページのシーケンスブロックのSyncフィールドで、SONGモードではソングブロックのSyncフィールドでそれぞれ[WINDOW]キーを押してSync In/Sync Outポップアップウィンドウを開いて設定して下さい。

オーディオCDプレイヤー機能を追加

内蔵CDドライブをオーディオCDプレイヤーとして使用できるようになりました。

対応する内蔵CDドライブとオーディオケーブルが接続されていれば、RECORDモードのInput SourceフィールドでINTERNAL(ANALOG)やINTERNAL(DIGITAL)を選択できるようになります。

INTERNALを選択すると、レコードブロックのレベルメーターの下にCD Playerが表示されるので、任意のトラックやポイントから再生させて録音できます。また、[F3]キー(▲)を押せばドライブ内のオーディオCDを取り出すことが可能です。



注：内蔵CDドライブ及びオーディオケーブルの接続については、MPC4000のリファレンスマニュアルP.255を御参照下さい。

Step edit event monitorフィールドを追加

STEP EDITモードのイベントリストブロックでカーソルの位置のMIDIイベントを再生するかどうかを設定できるようになりました。

MISC.モードのStep edit event monitorフィールドでON/OFFを選択できます。

Step edit event monitorフィールド

- ON [STEP EDIT]モードのイベントリストブロックでMIDIイベントが再生されます。
- OFF [STEP EDIT]モードのイベントリストブロックでMIDIイベントは再生されません。

NOTE REPEAT keyフィールドを追加

MISC.モードのNOTE REPEAT keyフィールドでLATCH/UNLATCHを選択できるようになりました。

NOTE REPEAT keyフィールド

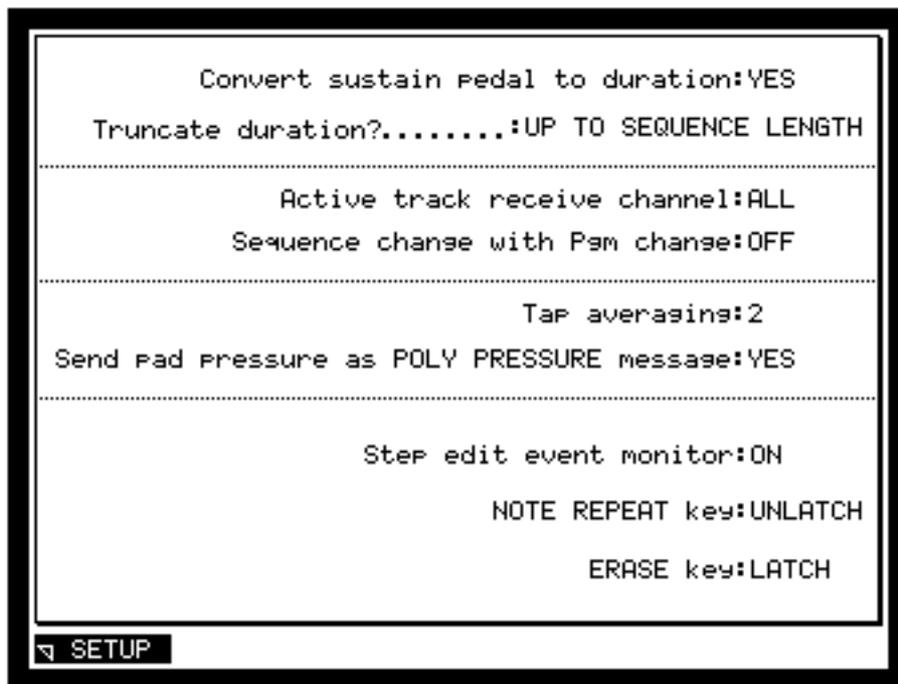
- LATCH [NOTE REPEAT]キーを押すとインジケータが点灯してリピートがオンに、もう一度押すと消灯してリピートがオフになります。
- UNLATCH [NOTE REPEAT]キーを押し続けている間だけインジケータが点灯してリピートがオンになります。

ERASE keyフィールドを追加

MISC.モードのERASE keyフィールドでLATCH/UNLATCHを選択できるようになりました。

ERASE keyフィールド

- LATCH [ERASE]キーを押すとインジケータが点灯してイレースがオンに、もう一度押すと消灯してイレースがオフになります。
- UNLATCH [ERASE]キーを押し続けている間だけインジケータが点灯してイレースがオンになります。



ドライブメディアからのOSバージョンアップに対応

1. MPC4000のOSファイル“ M4C***.bin “ をセーブしたDOSもしくはISO9660フォーマットのメディアをMPC4000に接続します。(***の部分は各バージョン・ナンバーが入ります)
2. LOADモードでM4C***.binを選択して[F6]キー(DO IT)を押します。
3. OS Upgradeポップアップウィンドウが表示され、“Do you want to install Operating System?”と表示されますので、[F6]キー(INSTALL)を押してインストールを開始します。
4. 全ての作業が終了すると“Upgrading of the Flash ROM was successful!”と表示されます。
5. OS Upgradeポップアップウィンドウの[F6]キー(RESTART)を押してMPC4000を再起動します。
6. GLOBALモードの[F1]グローバルページで[F6]キー(INITIAL)を押してバージョンアップは完了です。

注：OSのバージョンアップ作業中に本体の電源を切ってしまうと内蔵Flash ROMに損傷を与えることがありますので、作業中は電源を切らないで下さい。

EIII™サウンドライブラリーCD-ROMに対応

E-MU社のEmulator III用CD-ROMのプリセット/サンプルをMPCにロードできるようになりました。サウンドデータの変換が正しく行われるように多くの配慮がなされていますが、両者のハードウェアの相違により、弊社はサウンドが100%正確に変換されることは保証できかねます。但し、変換されたサウンドはかなり近いもので、少なくとも使用に耐え得るものです。

Disk Listポップアップウィンドウ以外でのEJECTに対応

Disk Listポップアップウィンドウを開かなくてもLOADモードで[F3]キー(▲)を押すことでリムーバブル・メディアを取り出せるようになりました。

SHIFTキーとPADによるソロトラックの複数選択に対応

TRACK MUTEモードで[F6]キー(SOLO)を押しながら任意のPADを叩いてソロトラックを指定後、[SHIFT]キーを押しながらPADを叩くことでソロトラックを複数選択できるようになりました。

Edit Part機能を追加

MAINモードとMULTIモードで、モニターをマルチのまま選択したパートだけを編集できるようになりました。シーケンス再生中等に任意のパートだけをエディットすることができるので、PROGRAMモードへ移動してMonitorフィールドを変更する必要がありません。

MAINモードでは、[F1]メインページのPart Nameフィールドで[WINDOW]キーを押してProgram Listポップアップウィンドウを開いて[F5]キー(EDIT)を押します。MULTIモードでは、[F2]ミックスページのPart Nameフィールドで[WINDOW]キーを押してProgram Listポップアップウィンドウを開いて[F5]キー(EDIT)を押します。

画面構成はPROGRAMモードとほぼ同じですが、MonitorフィールドがMultiに固定されるので、=Edit Part=と表示されます。また、選択したパートだけをエディットするため[F1]キーがLISTからMISC.に変更され、Part Nameフィールドで他パートを選択することもできません。

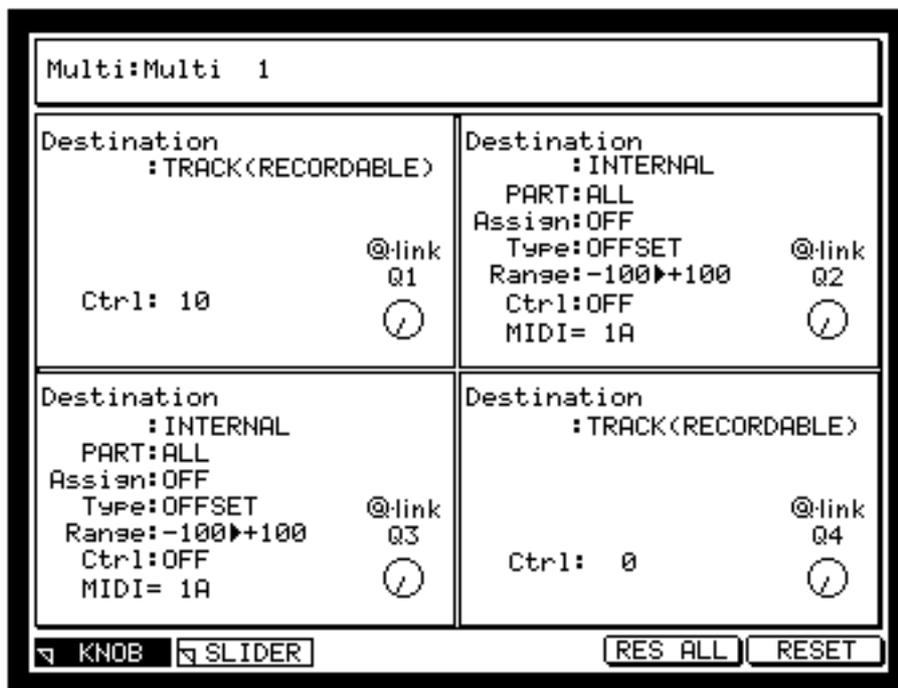
Destinationフィールドを追加

Q-Link操作をMIDIコントロールチェンジとしてシーケンサーに記録できるようになりました。

Q-Link SETUPモードのデスティネーションブロックにDestinationフィールドが追加され、INTERNALかTRACK(RECORDABLE)を選択することができます。

Destinationフィールド

- INTERNAL Q-Linkの情報は内部音源に送られ、Q-Linkでパートあるいはエフェクトのパラメータをリアルタイムにコントロールします。
- TRACK Q-Linkの情報はシーケンサーのトラックに送られ、Q-Link操作を任意のMIDIコントロールチェンジとしてシーケンサーに記録します。



例えば、Q1のDestinationフィールドでTRACKを選択してCtrlフィールドを10に設定します。Q1の[ACTIVE]キーのインジケータが点灯していれば、MAINモードでQ1を操作しながらシーケンスを録音するとQ1の操作はControl Change No.10のPanとしてトラックに記録されます。

また、PROGRAMモードのProgram Modulationと併用することでノブ/スライダーでDestinationをコントロールすることも可能です。

例えば、Q4のDestinationフィールドでTRACKを選択してCtrlフィールドを0に設定します。Program ModulationのSourceフィールドをCONTROLLER 0に設定してDestinationフィールドをCUT OFFに設定してDepthフィールドを適当な値に設定すれば、Q4を使ってカットオフをコントロールすることができます。

TAP TEMPOキーによるスペース入力に対応

Name/Renameポップアップウィンドウで[TAP TEMPO]キーを押してスペースを入力できるようになりました。

リスト画面でのスクロールアップ/ダウンに対応

リスト画面で[SHIFT]キーを押しながら[BLOCK CURSOR /]キーを押すことでスクロールアップ/ダウンが可能になりました。

例えば、PROGRAMモードでドラム・プログラムを選び、[F2]キーグループミックスページでサンプルリストブロックからC-2をカーソルで選択して[SHIFT]キーを押しながら[BLOCK CURSOR /]を押せばC-1へ移動します。

ノートナンバー/ノートネームの切替に対応

現在選択されている（反転している）ファンクションキーをもう一度押すことで、Note Number/Note Nameの表示を切り替えられるようになりました。

例えば、PROGRAMモードの[F2]キーグループミックスページがNote Nameで表示されていた時、もう一度[F2]キー(KG MIX)を押すとノート表示がNote Numberに変更されます。

STOPキーの3連打によるパニック機能に対応

[STOP]キーを3連打することで、MIDIモードの[F1]ルーティングページと[F2]フィルターページの[F6]キー(PANIC)と同じ機能を使えるようになりました。

[STOP]キーを3連打すると、MIDI端子からオールノートオフ、リセットオールコントローラーズ、ダンパーオフ、バンド0メッセージが出力されるので、ワンショットの長時間サンプルの再生を途中で中止したいとき等に便利です。

USBホストドライバーの改善

MPC4000のUSBホストドライバーが改善され、以下のコマンドセットに対応しました。

C/DVD device	SFF-8020i / MMC-2
FD device	SFF-8070i / UFI
Other device	SFF-8070i / SCSI transparent command set

これらのコマンドセットに準拠するUSBマス・ストレージは、MPC4000に接続して使用することが可能です。



AKAI professional M.I. Corp.